

| | | | | | |
|---|--------------------|---------|-----------|---------------|------------|
| 講義名 | 授業におけるICTの活用【教職科目】 | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 川合 宏之 | | 開講期・曜日・時限 | 後期集中 その他 その他 | |
| | 単位数 | 1 | 履修開始年次 | 2年生 | ナンバリング・コード |
| 主題と概要 | | | | | |
| ICT (Information and Communication Technologies) を活用した授業の実践的な修得をテーマとし、ICT教育環境のもとで、学習指導や校務の推進のあり方を理解し、生徒に情報活用能力を育成するための指導法を学ぶことを目的とする。 本授業では、ICTの効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学び、学校の情報化に対応できる高等学校教員を目指す。ICTの核となるコンピュータ及びネットワークに関する技術的背景、ICTの世界的な普及に伴う社会変動とその中での教育に対する要請の変化、教育分野のICT利用の普及が教育現場に及ぼす影響などについて理解する。ICTを活用した学習指導のほか、教育データの活用や学習評価に関する活用、校務における活用を取り上げる。また、生徒に情報活用能力を育成するための指導法を理解し、授業設計や授業改善に活かせる力を修得する。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるICT活用の意義と理論を理解することができる。 ・ICTを活用した学習指導や校務推進の現状と今後のあり方について理解することができる。 ・生徒に情報活用能力を育成するための指導法を身につけることができる。 ・授業の目標実現に最適なICTを活用した授業を設計することができる。 | | | | | |
| 提出課題 | | | | | |
| 授業時に指示する。 | | | | | |
| 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・演習・課題レポートについては、評価し授業の中で返却するとともに、要点や模範解答について解説する。 ・返却しないものについても授業の中で模範解答の解説と講評を行う。 | | | | | |
| 評価の基準 | | | | | |
| 講義内容の理解度を確認するため、数回のレポート課題を与え、提出を求める。評価は、レポート内容、講義中の発表内容に基づき総合的に行う。 発表・提出物(50%)、レポートの評価(50%) | | | | | |
| 履修にあたっての注意・助言他 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教員を目指す者が受講する科目なので、遅刻・無断欠席は認めない。 ・積極的に発言し、受け身の授業にならないようにしてほしい。 | | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| .使用しない。 | | | | | |
| 参考図書 | | | | | |
| .ICT活用の理論と実践。 | 稲垣忠・佐藤和紀 | 北大図書房 | 2200 | 978476283180 | |
| .ICTを活用する新しい時代の教育方法。 | 佐藤仁・伊藤亜希子・和田美千代 | ミネルヴァ書房 | 2640 | 9784623095056 | |
| .高等学校ICT活用で実現する個別最適な学び・協働的な学び。 | 室徳将人 | 学事出版 | 1980 | 9784761929510 | |

| | |
|---|---|
| その他 | |
| その他、必要に応じて資料を配布する。 | |
| 授業計画 | |
| <p>第1回：「学校教員がめざす学力とICT教育のねらい」 <予習> 講義前にシラバスを確認(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第2回：「ICT教育の現状と課題」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第3回：「生徒の情報活用能力の育成」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第4回：「授業におけるICT機器・デジタルコンテンツの活用」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第5回：「遠隔・オンライン教育の意義と実際」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第6回：「校務の情報化とデータ活用」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第7回：「学習評価と学習履歴データの活用」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 授業内で提示された課題(120分)</p> <p>第8回：「これからの教育に求められるICT活用指導力」 <予習> 配布資料による復習(120分) <復習> 全授業の振り返り(120分)</p> | |
| 授業形態（アクティブ・ラーニング） | |
| <input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習） | <input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| <input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート | <input type="checkbox"/> エ：グループワーク |
| <input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション | <input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク |
| <input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | |
| 本授業は、高等学校教諭一種免許状（商業）を取得するための必修の科目である。商学部マーケティング学科では商業科教員免許状が取得できるように、免許に必要な科目が配置されている。本学科の専門性を活かした体系的な学習により、教職・教科に関する専門知識と技能を修得することで、商業科教員としての職務を遂行することができる資質能力を身に付けた人材を養成することができる。本学の教育目的にもある「問題を等身し、分析し、持続可能な解決策を構想する能力」や「知識や理論を発表させ、実践的なスキルに変換する力」を養うことで、学校や地域社会が抱える教育課題を発見し解決に取り組む力を身につけることができる。 | |
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 | |
| 小グループによる課題に対するディスカッション・グループワークを予定。講義を通して授業者としての資質・能力を身に付ける。 | |
| 実務経験の有無及び活用 | |
| 実務経験あり 元高等学校教諭として、学校現場における教員経験を活かして、教育におけるICTの具体的な活用方法について指導する。 | |
| 備考 | |